

(仮訳)

プレス・リリース

2022年12月16日

中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループは、暗号資産に関する国際的な銀行の健全性基準及びバーゼル銀行監督委員会の作業計画を承認

- バーゼル銀行監督委員会(以下「バーゼル委」)の上位機関は、銀行の暗号資産エクスポージャーに関する国際的な健全性基準を、2025年1月1日までに実施するものとして承認する。
- 2023-24年のバーゼル委の作業計画と戦略的優先事項を承認する。
- 作業計画は、エマージングリスクと脆弱性、金融デジタル化、気候関連金融リスクおよびバーゼルⅢの実施に関する作業を優先する。

バーゼル委の上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ(以下「GHOS」)は、12月16日に会合を開催し、銀行の暗号資産エクスポージャーに関する最終化された健全性基準及びバーゼル委の2023-24年における作業計画と戦略的優先事項を承認した。

GHOS議長であるティフ・マックレム氏(カナダ中央銀行総裁)は、「本日のGHOSによる承認は、暗号資産から銀行へのリスクを軽減するための国際的な規制上の基準を策定する上で重要な節目となる。暗号資産市場における銀行関連の動向を引き続き注視することが重要である。われわれは引き続き、必要に応じて追加的に行動する用意がある」と述べた。

バーゼル委議長であるパブロ・エルナンデス・デ・コス氏(スペイン中央銀行総裁)は「暗号資産に関するバーゼル委の基準は、金融安定上の新たなリスクを軽減するために世界的に協調した方法で行動するというわれわれのコミットメント、意欲、そして能力を示すさらなる例だ。本日GHOSによって承認されたバーゼル委の2023-24年における作業計画は、規制、監督及び世界の銀行の実務を一層強化することを目指している。特に、エマージングリスク、金融デジタル化、気候関連金融リスク、およびバーゼルⅢのモニタリングと実施に焦点を当てている」と述べた。

暗号資産

GHOSは、銀行の暗号資産エクスポージャーに関するバーゼル委の最終化されたブルデンシャルな取扱いを承認した。裏付けのない暗号資産および有効な価値安定

化メカニズムを持たないステーブルコインは、保守的な取扱いの対象となる。この基準は、国際的に活動する銀行の暗号資産エクスポージャーに対して、金融の安定性を維持しつつ責任あるイノベーションを促進する、頑健で慎重な国際規制枠組みを提供する。GHOS のメンバーは、2025 年 1 月 1 日までに同基準を実施することに合意し、バーゼル委に基準の実施と効果をモニタリングするよう指示した。

グローバルな銀行システムの直接的な暗号資産エクスポージャーは比較的低位に留まるが、最近の動向は、暗号資産からのリスクを軽減するために、国際的に活動する銀行に対してグローバルに強力な最低限の健全性枠組みを有することの重要性を一層際立たせている。これに対応するため、GHOS はバーゼル委に対し、ステーブルコインの発行者や暗号資産のカストディ業務の提供者としての銀行の役割や、より広範で潜在的な相互関連の経路を含め、暗号資産市場における銀行関連の動向を引き続き評価するよう指示した。より一般的には、バーゼル委は引き続き他の基準設定主体や金融安定理事会 (FSB) と協調して、ステーブルコインの統合的な国際規制上の取扱いを確保する。

バーゼル委の 2023-24 年における作業計画

GHOS はまた、バーゼル委の 2023-24 年における戦略的優先事項と作業計画を承認した。作業計画は、グローバルな銀行システムに対するエマージングリスクと脆弱性を特定し評価するためのフォワードルッキングなアプローチを追求することに加え、進行中の金融デジタル化、気候関連金融リスク、バーゼルⅢ枠組みのモニタリング、実施及び評価に関連する作業に高い優先順位を置いている。